

第一章 現況と課題



1. 勝連城跡及びその周辺地域の動向	6
2. 自然環境	8
3. 歴史的背景	11
4. 観光資源	18
5. 上位関連計画の整理	26
6. 現況及び課題の整理	32
7. 整備にあたっての視点	38
8. 各種関連計画における保全及び整備の方針等	40

1. 勝連城跡及びその周辺地域の動向

(1) 地域の人口・世帯数

勝連城跡に隣接する地域は、勝連南風原と与那城西原であり、勝連南風原は 1,396 世帯、人口 3,597 人、与那城西原は 602 世帯、人口 1,627 人となっている。

【地域内の世帯数】

単位：世帯、人

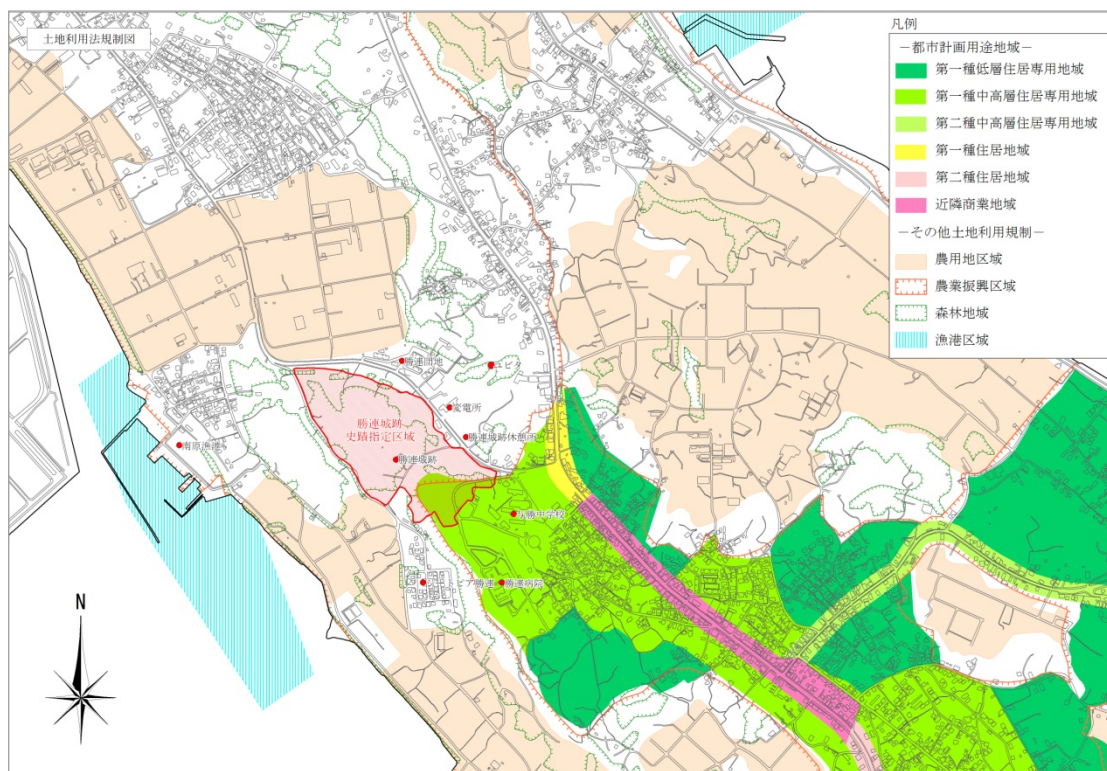
地域名	世帯数	人口合計		
		世帯数	男性人口	女性人口
勝連南風原	1,396	3,597	1,795	1,802
与那城西原	602	1,627	784	843

平成 25 年 9 月 30 日現在

参考：うるま市ホームページ

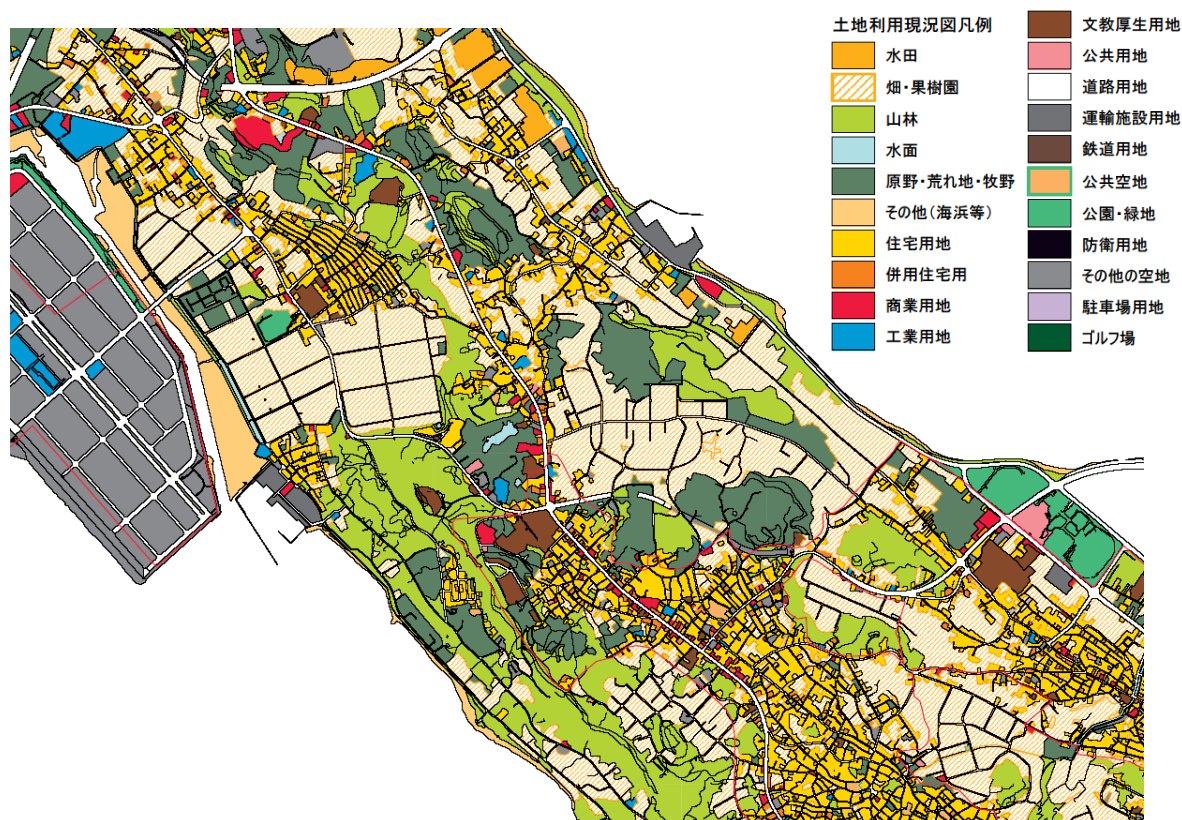
(2) 土地利用法規制

勝連城跡史跡指定区域は、都市計画法の森林地域と第一種中高層住居専用地域が含まれている。勝連城跡より東側の地域は、都市計画用途地域に指定されており、その内県道 10 号線沿道については、第一種住居地域と、近隣商業地域、第二種住居地域に指定されている。城跡より北側については、農用地区域として指定されており、土地改良がされた区域となっている。西側の地域については、森林区域及び農用地区域、海岸部では漁港区域として指定されている。



土地利用の状況は、勝連城跡は森林区域に含まれていることから、周りは山林となっている。城跡周辺については、県道 16 号線を挟んだ城跡入口において、休憩所や駐車場として利用されている一方、近隣には採石場や変電所などがある。北側には南風原集落、西側に西原集落、南側にはシートピア勝連が位置し、住宅用地として利用されている。県道 10 号線沿道については、商業・業務地域や工業地域が点在している。城跡から東側には与勝中学校、北側には南原小学校等の公共施設用地がある。

全体的に、用途地域を除いては、山林や農地等の自然的土地利用がなされている。



資料：平成 23 年度 都市計画基礎調査

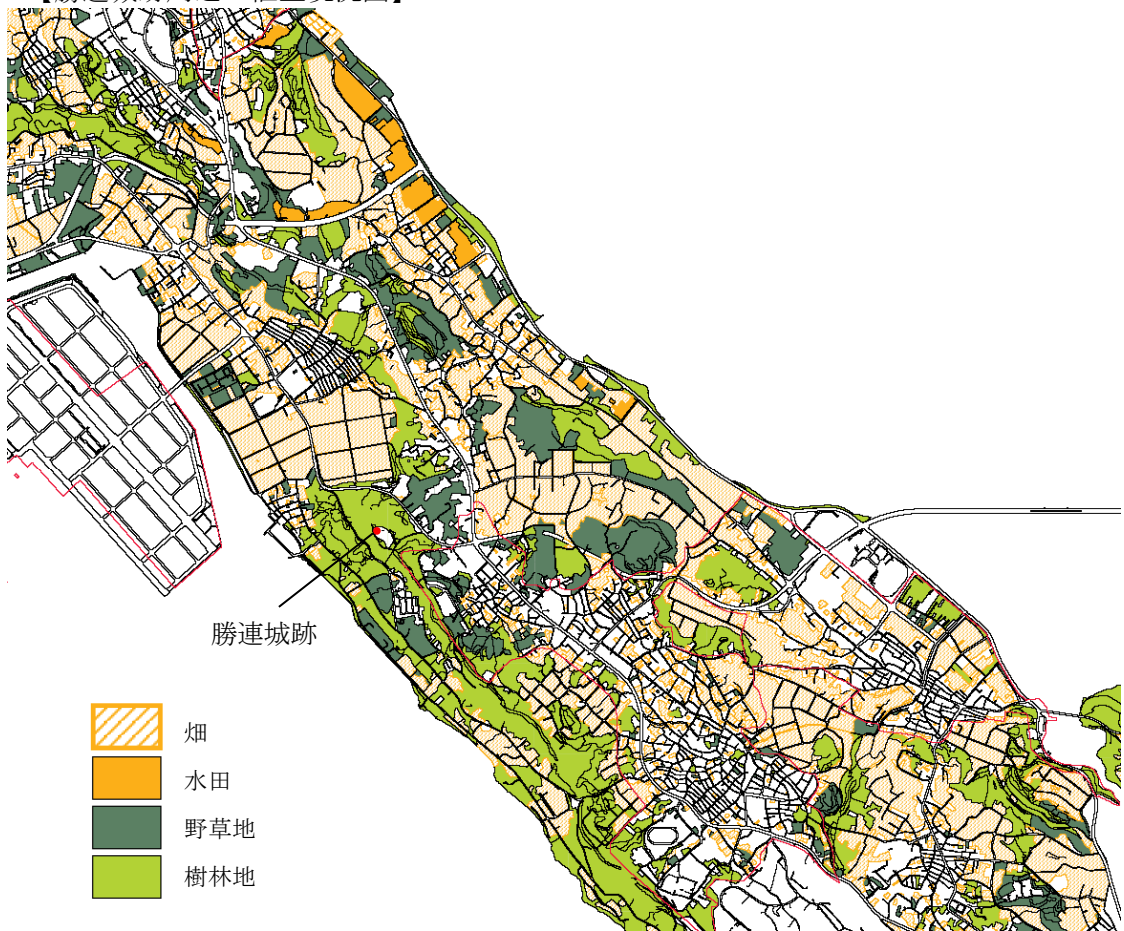
2. 自然環境

(1) うるま市の自然環境

1) 都市の自然環境

石川岳や下原地区※1の斜面緑地帯、勝連半島南岸の急傾斜地、平安座集落背後や宮城島・津堅島周囲の斜面緑地といった島しょ地域等の樹林地は、生物の貴重な生息地・生育地であり、まちに潤いをもたらすとともに、水源涵養や市土の保全、二酸化炭素の吸収による地球温暖化の抑制や大気の浄化等の多様な役割を担っている。具志川地区の市街地内にもまとまりのある自然緑地が点在して残っているが、近年、開発等により減少している。

【勝連城跡周辺の植生現況図】



資料：平成 23 年度 都市計画基礎調査

※1 下原地区：具志川地域の中城湾に面する5字（川田・塩屋・豊原・高江洲・前原）一帯のこと。

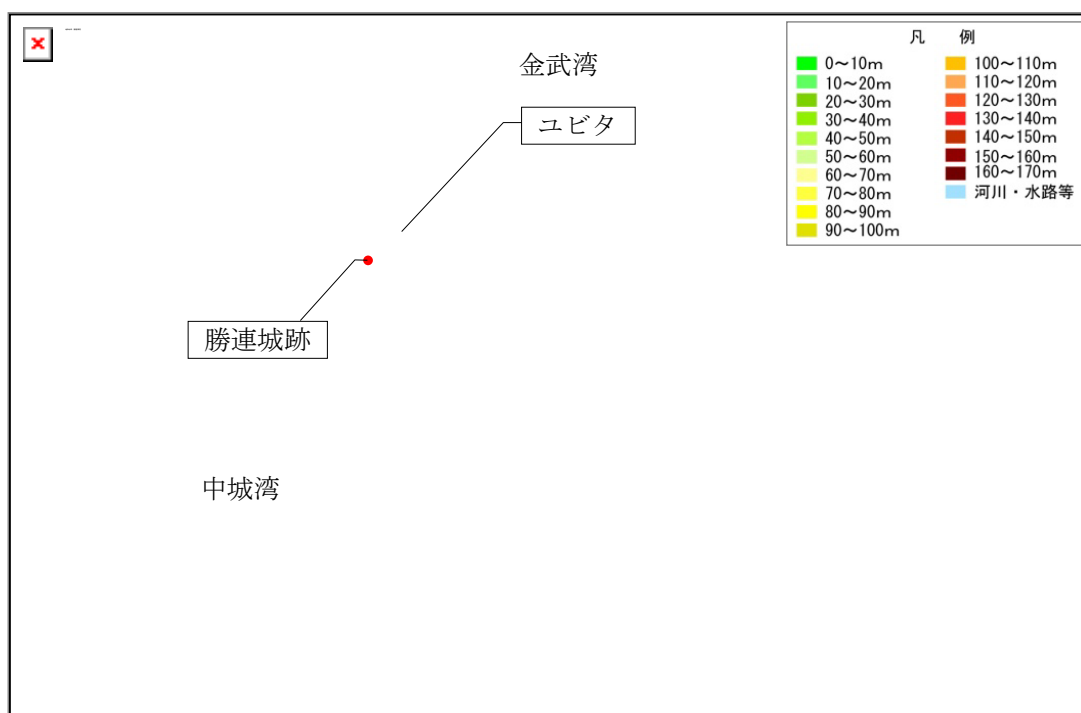
樹林地に囲まれている山城ダム（旧天願ダム）、石川ダム、倉敷ダム（旧瑞慶山ダム）等は、周辺の緑地と水面によって良好な環境が形成されている。また、勝連城跡の北側にある沼地ユビタは、水鳥等の貴重な飛来地となっている。

市内を流れる天願川水系や石川川水系等の河川は、治水・利水の役割を担うだけでは

なく、潤いのある水辺空間を形成し、多様な生物の生息地・生育地となっているが、雨天時には赤土が流出し、環境への影響が懸念される。

本市の海岸域は人工的な海岸もあるが貴重な自然海岸も残されており、金武湾一带の沿岸はラグーン（広い浅瀬）となっている。また、中城湾港新港地区にはトカゲハゼ※2の生息地としてマングローブ帯のある人工干潟が造成されている等、多様な海岸・海浜を形成している。しかしながら、自然海岸や砂浜は減少し、生活雑排水の混入やゴミの投棄等による水質悪化が見受けられる箇所もあり、環境保全が望まれる。

【勝連城跡周辺の地形及び水系】



2) 歴史風土を有する自然環境

沖縄ではグスクや御嶽、湧水等は神の宿る神聖な場所として崇められてきた。勝連城跡、安慶名城跡、伊波城跡等のグスクや、市内に数多くある御嶽や井泉は、それを取り巻くみどりと一体となっており、歴史風土を感じさせる貴重な郷土資源であるが、十分な整備がなされていない箇所もある。特に世界遺産である勝連城跡及びその周辺は環境保全地区※3として指定しており、適正な保全と整備に努めて積極的な活用を図る必要がある。また、米軍基地内には天願貝塚等の貴重な史跡と自然環境が残されている。

集落にある闘牛場は、本市の代表的な農村伝統文化の場であるとともに、オープンスペースと一体となった緑地空間である。

※2 トカゲハゼ：スズキ目ハゼ科の魚。沖縄県及び環境省のレッドデータブックにおいて、それぞれ絶滅危惧種 IA 類に指定されている。日本では沖縄本島の中城湾沿岸及び大浦湾沿岸にのみ生息する。
 ※3 環境保全地区：勝連城跡の環境保全に関する条例（平成 17 年 4 月 1 日うるま市条例第 84 号）第 5 条第 1 項にある「勝連城跡及び周辺の環境を保全整備するため、特に必要な区域」。環境保全地区に指定されると、次の(1)～(3)の行為に制限がかかる。(1)建築物等の新築、増築、改築、移転又は撤去、(2)土石類の採取又は土地の区画形質の変更、(3)木竹の伐採。

3) 生活環境の形成に資する自然環境

農地は、生産面だけでなく緑地資源としての役割を有している。本市には、地域の特性に合わせてビーク田（い草田）や田芋畑、水田等が残存し、優れた農村環境を形成している。

道路の植栽帯は、通行車両からの排気ガスや騒音を和らげて道路沿いの環境を守っている。

石川公園や野鳥の森公園等の公園・緑地は、都市に潤いを与え、市民の快適な生活環境の形成に寄与している。

ゴルフ場は管理の行き届いた広大な緑地が形成され、ビオスの丘はヤンバルの植物が繁茂する優れた自然環境の中に形成された植物園である。

官公庁等の公共施設や大規模商業施設等の民間施設の緑化空間は、施設内の良好な環境形成とともに、市民の身近な潤い空間としての役割を有しているが、施設によって緑化状況にばらつきがある。

(2) 勝連城跡周辺の景観

世界遺産である勝連城跡は、「肝高」の風格を持つ悠久の歴史を感じる景観を有している。城跡頂上からは、周辺の緑や農地、海、街並み等が一望でき、360° パノラマの景観は、訪れる人々を魅了する。

城跡周辺には、県下でも珍しい区割りの残る南風原の街並みや、漁港に隣接する浜屋等の集落が形成されており、集落内には多くの文化資源等が残っている。また、勝連城跡は豊かな緑に囲まれ、城北側にあるユビタには多くの野鳥が訪れるなど、貴重な自然資源が残っている。

現在、勝連城跡を中心とした勝連南風原地区において、世界遺産である勝連城跡の風格を守るため、市民・行政の協働による景観まちづくりが進められている。



ユビタから望む勝連城跡



勝連城跡の眺望景観



3. 歴史的背景

本市は、世界遺産の勝連城跡をはじめ貴重な歴史遺産や文化財、各地域で長年培われてきたエイサーや闘牛、獅子舞など数多くの伝統文化が保存され受け継がれている。

(1) 地区ごとの歴史的な特徴

●石川地区

先史遺跡が9箇所確認され、その中で「伊波貝塚」は、沖縄の縄文式文化の存在を決定的にした貝塚で、国指定の史跡となっている。

太平洋戦争までは美里村政下の農村集落であったが、戦中戦後、米軍により設置された避難民収容所や琉球政府の前身である沖縄諮詢会、さらには民政府設置など戦中戦後の沖縄政治・経済の中心地として発展してきた。



伊波城跡

●具志川地区

按司時代からの城跡が多く残っており、中頭地方の古くからの拠点である。

肥沃な土地に恵まれ1941年にはサトウキビの生産量が沖縄一となっている。

戦後は、外国語学校、文教学校、農林学校などが創設され、戦後沖縄の文教の中心地として発展していた。



安慶名城跡

●与那城地区

先史遺跡が12カ所、グスクが5カ所確認されている。

12世紀ごろ、勝連に出現した勝連按司の支配下におかれ、10代目の阿麻和利の時代に全盛期を迎えた。17世紀初頭から国頭の東海岸に生活必需品を供給し、木材や炭などを南部に運ぶためにサバニを数隻組んだテーサン舟が活躍するようになり、平安座島を中継地とし、南部の与那原港に往来した。



ジャーナーガマ遺跡

●勝連地区

先史遺跡が51カ所確認され、半島側では南側に多く、津堅島では海岸部に点在、浜比嘉島には洞穴内遺跡が多く見られる。

勝連按司10代目の阿麻和利の時代になると勝連は最盛期を迎え、徳之島や奄美大島、さらに中国や朝鮮との交流も盛んに行なわれていた。平成12年、勝連城跡が世界遺産に登録されている。

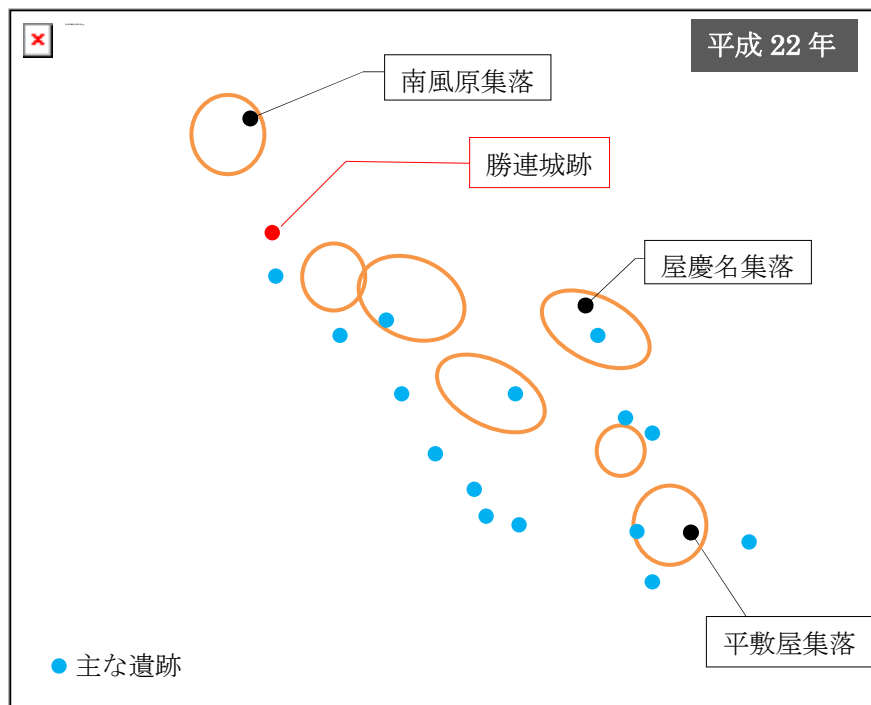


勝連城跡

(2) 勝連城跡周辺の集落

勝連城跡周辺には南風原集落をはじめ、屋慶名集落、平敷屋集落等の伝統的な集落が残っている。南風原集落については、かつては勝連城跡南側の傾斜地に集落を形成しており、1726年（尚敬王14年）に現在の位置に移動している。

これら伝統的な集落には、地域の神を奉る拝所やエイサー等の伝統行事が今でも残っており、地域の人々によって守られ、継承されてきている。



(3) 勝連城跡の概要

1) 地理的環境

勝連城跡が所在する勝連南風原は、市の半島部（勝連半島）の根元部分に位置する。北西から南方にかけて長さ2.75km、幅1.2kmと旧勝連町内では比較的広い集落で、肥沃な土地柄である。地質は、丘陵部の一部に島尻マージがあるが、ジャーガル土壌が大半を占め、海岸低地に若干のカニク土壌がある。

本城跡は、その南風原の北西側に位置し、琉球石灰岩丘陵上（標高60m～100m）に築かれたグスクである。崖地形が巧みに利用され、北西の最高部から一の曲輪、二の曲輪、三の曲輪、四の曲輪と各平場が階段状に低くなり、再び南東側の東の曲輪で高くなっている。明治時代まで城郭をめぐる石積が良く残っていたようで、海岸側から見る姿は進貢船に似ていたと伝えられている。最も高い一の曲輪に上ると、北は遙か金武湾を囲む北部の山々や太平洋の島々が望まれ、南は知念半島や中城湾、それを隔てて護佐丸の居城であった中城城が一望できる景勝地となっている。

城の南側傾斜地はかつて南風原集落が展開して、海岸には海外貿易の拠点となった港があり、繁栄していたと伝えられている。それを物語るように御嶽や井戸（カー）が多数所在し、南風原集落があったとみられる南風原古島遺跡からは石罫遺構などの屋敷跡や、城から分配された陶磁器類が多数発見されている。また城の北側は、現在はほとんど埋め立てられているが、かつて湿地帯であり、城の財政を支える田圃などの農地が広がっていたと考えられる。

2) 歴史的環境

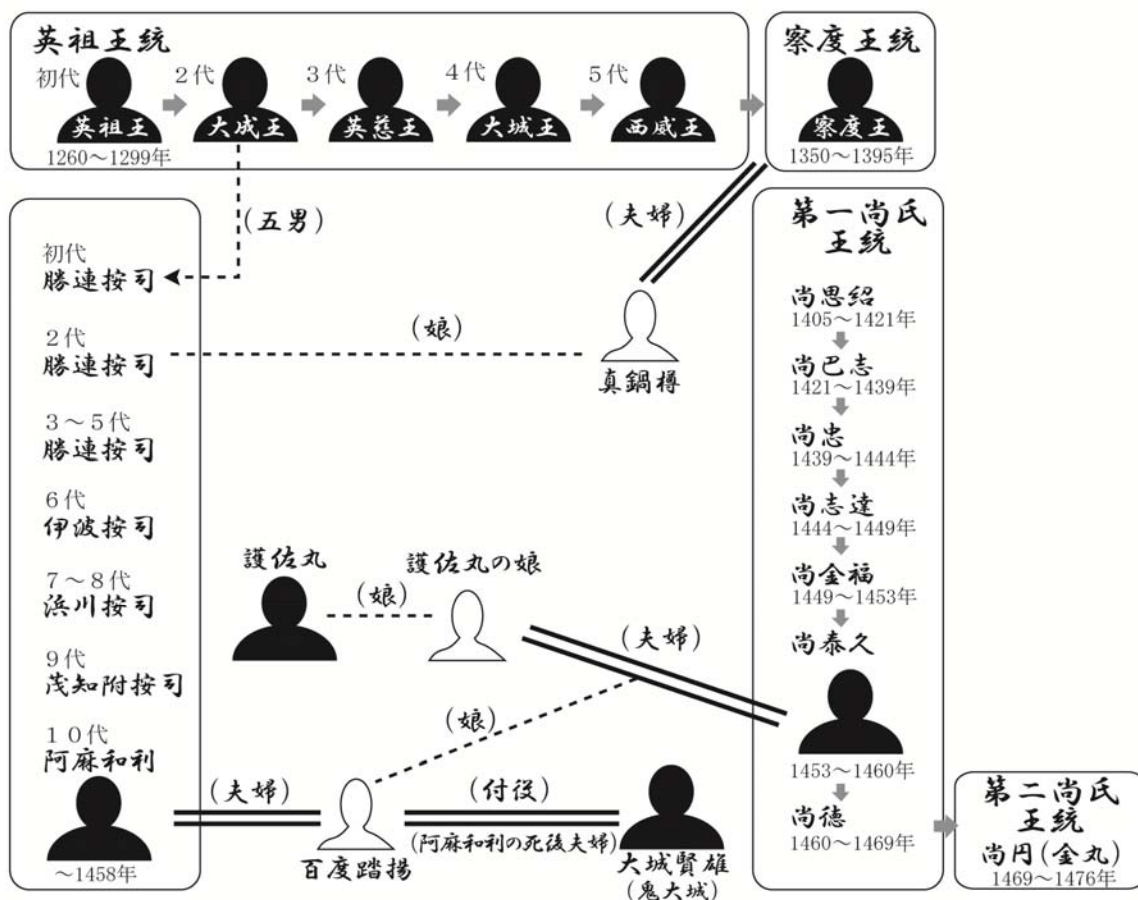
勝連城は、『阿麻和利』の居城として有名であるが、古墳～平安並行時代末より古代人の生活の場として利用され、13世紀頃から城塞として整備されたと考えられている。伝承によると、初代城主は英祖王系二代目の大成王（1300～1308年）の五男（勝連按司）であったと伝えられている。その後、五代目のときに跡継ぎが出来なかったため、伊波按司（伊波グスク）の六男を養子に迎え、六代目とする。続く七・八代は交代の理由は判らないが、浜川按司となっている。そして九代目は茂知付按司となるが、圧政を敷き酒に溺れたことから、人々の信頼の厚い加那（のちの阿麻和利）によって倒される。阿麻和利によって勝連はますます栄え、当時の琉球国王（尚泰久）の娘（百度踏揚）を妻にするほどの力を持つ。

阿麻和利は、1458年ライバルの中城城の護佐丸を倒し、首里城に攻めたといわれている。首里城で敗れた勝連軍は、逆に大城賢雄（鬼大城）を総大将とする首里王府軍に攻められ、阿麻和利は敗れ、勝連城は廃城になったといわれている。

その後、17世紀頃まで祭祀の場など何らかのかたちで利用されていたことも判明している。廃城後、明治の頃までは、城を取り囲む石積が良く残っていたようであるが、大正時代から昭和にかけての採石により、石積のない城に変貌した。

勝連城跡の考古学的な発掘調査は古く、1960年に大川清氏により古瓦研究に中心をおいた調査が行われた。次に1965～1968年の4ヶ年に亘って琉球政府文化財保護委員会により調査が行われ、城の成り立ちが明らかにされ、同時に夥しい量の遺物が出土した。また1970年にも遺構調査が実施された。出土遺物は豊富で、元様式青花を含む中国産の陶磁器が多量に出土している。その他に東南アジア産の陶磁器類、朝鮮の磁器、大和系の瓦が出土しており、勝連城が一時期、海外貿易の拠点として壮大な力をもっていたことが判明している。

【勝連の按司の系譜（伝承）】



資料：「うるま市文化財シリーズ⑥ 勝連城跡」市教育委員会 文化課

＜勝連城跡の5つの時代＞

前述した発掘調査によって城の成り立ちが明らかになりつつある。大きく分けると5つの時期があったと考えられる。

第1期は、フェンサ下層式土器（くびれ平底土器）を中心とする遺物が出土する時期で、古墳～平安並行時代末（沖縄貝塚時代後期末）。

第2期は、フェンサ上層式土器（グスク土器）を中心としてカムイヤキ（類須恵器）や白磁玉縁口縁碗などが出土する12～13世紀中頃の時期。勝連城跡の築城時期は、この時期だとされている。

第3期は、中国産陶磁器の量が増え始める頃で、13世紀後～14世紀中頃の時期。

第4期は、大規模な土木工事を行い、城を整備していく時期で、中国産の陶磁器が大量に出土する（14世紀後～15世紀中）。その陶磁器などからみて、栄えた時期であったと考えられる。阿麻和利が城主となった際には、海外貿易によって勝連が最も栄えた時期と推測される。

第5期は、廃城となり祭祀の場などとして一部が使用された時期（15世紀後～17世紀）。以上のように勝連城跡は、古墳～平安時代末から17世紀頃まで生活の場として連綿と利用されたことがわかっている。



資料：「うるま市文化財シリーズ⑥ 勝連城跡」市教育委員会 文化課

< 曲輪の概要 >

【一の曲輪】

最高部の一の曲輪からは大量の瓦が出土している。砂岩製（ニービノフニ）の礎石も発見されていることから、瓦葺きの建物があつたことが判明している。また本グスクにおいても良質な中国産の陶磁器が最も多く出土していることから、重要な施設があつたと推測される。

【二の曲輪】

正面約17m、奥行き約14.5mの礎石建ちの建物跡が発見されている。近年の調査や研究によって、二の曲輪やその前面にある三の曲輪からも多くの瓦が出土しており、この建物も瓦葺きであつた可能性がある。

【三の曲輪】

二の曲輪前面の広場であつたと考えられており、首里城正殿が前面に広場を有するスタイルと似ている。その他、古い時代には掘立柱の建物が建ちならび、表面に粘土を貼ったすり鉢状の遺構も発見されている。

【四の曲輪】

5箇所のの井戸（カー）や南風原・西原御門が設置され、城の生活機能や最前線の守備機能を備えていた。東の曲輪は、四の曲輪の井戸を防御する上で、軍事的に重要な箇所であつたと考えられており、近年の発掘調査によって石垣の外側から堀切とみられる遺構も発見された。

現在も発掘調査は継続中であり、今後も新たな遺構が発見される可能性がある。



想定復元画：藤井尚夫氏

資料：「うるま市文化財シリーズ⑥ 勝連城跡」市教育委員会 文化課

<南風原集落の概要>

字南風原は、本市の南西部に位置し、旧具志川市と旧勝連町の境を接した肥沃な地に位置している。

南風原集落は、勝連城南側傾斜地の元島原に発祥したと伝えられ、1726年（尚敬王14年）に、*前浜三良（勝連バーマー）の努力によって、現在の肥沃な地に移動した。現在でも、村づくりの大恩人として南風原の人々は感謝して、報恩社を建てて祀っている。

【南風原の文化財】



※勝連間切平安名に生まれた前浜三良は浜掟（はまうち）という役職にあったことから勝連バーマーと呼ばれていた。

当時の南風原村を、不憫な勝連城南側断崖の中腹から移動させたり、養魚場を設けて養殖の先駆者の役割を果たしたと伝えられる。伝説的な人物として琉球中に名を轟かせた。

資料：「きむたかの文化財シリーズ③ 南風原」市教育委員会 文化課

4. 観光資源

本市の特徴的な観光資源は、山・川・海岸・海・島に代表される自然、景観、ビーチ、グスク、史跡・名所、エイサー、闘牛、観光レクリエーション、特産品などがある。

(1) グスク

本市の歴史文化を代表する遺産として、勝連城跡をはじめとする安慶名城跡、伊波城跡、平安座西グスク、江州グシク、兼箇段グシクなどがあげられる。

最も広く知られ、国指定文化財の史跡、世界遺産にも登録されているのが勝連城跡であり、勝連城跡は、15 世紀に活躍した阿麻和利^{あまわり}の居城で、勝連半島のほぼ中央の丘陵にあり、自然の地形を巧みに生かして築かれた城である。石積みの城壁が優雅で美しく、最も高い一の曲輪に登ると、中城湾や金武湾に浮かぶ島々、そして太平洋を一望できる景勝地でもある。

安慶名城跡は、14 世紀ごろ安慶名大川按司の築城といわれ、自然の断崖と急傾斜を巧みに利用した山城である。外側と内側に二重に石垣をめぐる県内では珍しい輪郭式のグスクで、国指定史跡である。

伊波城跡は、うるま市石川の標高90mの丘にあり、石川市街を一望することができる。今帰仁城主の子孫、伊波按司によって築城されたといわれ、城壁は自然石を組み合わせた野面積みの築城法で、県指定文化財の史跡に指定されている。

■ 代表的なグスク

- ・ 勝連城跡
- ・ 安慶名城跡
- ・ 伊波城跡
- ・ 平安座西グスク
- ・ 江州グシク
- ・ 兼箇段グシク



伊波城跡



勝連城跡

(2) 史跡・名所

本市には、グスクの他に数多くの遺跡や史跡、歴史的建造物、有形民俗文化財、歌碑、名所が存在する。遺跡では、国指定史跡の縄文時代後期の伊波貝塚や縄文時代晩期の集落跡の仲原遺跡、県指定史跡の平安名貝塚などがある。史跡や建造物等の代表的なものとして、石造建築技術が優れたヤンガーや田場ガー、石畳の大田坂、琉球開關伝説の神シルミチュー・アマミチューの墓や住んでいたといわれる場所などがある。

■代表的な史跡・名所

伊波貝塚(国指定史跡)	クボウグスクの植物群落 (市指定天然記念物)	シヌグ堂バンタ
仲原遺跡(国指定史跡)	嘉手苺観音像(市指定建造物)	浜千鳥節の碑
平安名貝塚(県指定史跡)	ヤンガー(市指定建造物)	高離節の歌碑
平敷屋タキノー(市指定史跡)	ガーラ缸(市指定建造物)	伊計離節の歌碑
アマミチューの墓(市指定史跡)	吉本家(市指定建造物)	石川多目的ドーム
ヤマトウンチュウ墓(市指定史跡)	南風原の村獅子(市指定有形民俗)	伊波闘牛場
ワイトゥイ(市指定史跡)	伊波ヌール墓(市指定有形民俗)	安慶名闘牛場
新川・クボウグスク周辺の陣地壕群 (市指定史跡)	シルミチュー(市指定有形民俗)	屋慶名闘牛場
兼筒段ジョーミーチャー墓 (市指定史跡)	宮城御殿(市指定有形民俗)	浜比嘉大橋
田場ガー(市指定史跡)	与佐次川(市指定有形民俗)	伊計大橋
大田坂(市指定史跡)	中の御嶽(市指定有形民俗)	クーガー橋
沖縄諮詢会堂跡(市指定史跡)	ヒッチャマー	海中道路
東恩納博物館跡(市指定史跡)	伊波按司の墓	石川高原展望台
石川部落事務所(市指定史跡)	ジャネーガマ遺跡	屋慶名展望台
犬名河(市指定名勝)	ヌチシヌジガマ	
チャー(県指定天然記念物)	ホートウガー	



ガーラ缸(市指定建造物)



仲原遺跡(国指定史跡)

(3) 観光レクリエーション施設

主な観光レクリエーション施設として、ビオスの丘、海の駅あやはし館、沖縄サーキット伊計島、県立石川少年自然の家などがある。また、ゴルフ場も4カ所あり、多くの利用者がいる。宿泊施設として、リゾートホテルやペンション、民宿などもある。

■ 代表的な観光レクリエーション施設

施設分類	名称	施設分類	名称
主要観光施設	海の駅あやはし館	宿泊施設	ホテルへんぎ
	海の文化資料館		ホテル潮騒
	石川歴史民俗資料館		春日観光ホテル
	市民芸術劇場		観光ビジネスホテル平安
	石川会館		ペンション赤野
	きむたかホール		コテージ伊計海の唄
	沖縄ロイヤルゴルフクラブ		民宿かいほう
	具志川ゴルフクラブ		民宿秀和
	高原ゴルフクラブ		民宿やすま
	東山カントリークラブ		民宿つけん
	石川少年自然の家		神谷荘
	沖縄サーキット伊計島		南原旅館
	キャロット愛ランド		はなりびら
宿泊施設	ホテル浜比嘉島リゾート	ゆがふの郷	
	ココガーデンリゾート沖縄	浜比嘉ハウス	



きむたかホール



海の駅あやはし館

(4) 闘牛

古くから大衆娯楽として親しまれてきた闘牛（ウシオーラセー）がある。ウシ同士を戦わせ、勝負を競うのが沖縄の闘牛で、うるま市は県内でも特に盛んで「闘牛のまち」として知られている。市内には5カ所の闘牛場があり、全島闘牛大会や準全島大会などが行われ、大勢の闘牛ファンが訪れる。



石川多目的ドーム

■ 代表的な闘牛場

- ・ 安慶名闘牛場
- ・ 石川多目的ドーム

(5) エイサー

旧盆の日に先祖の霊を慰めるために行われるエイサーは、各地域の青年達の手によって守り、受け継がれてきた。各地域によって、衣装や演舞が異なり、地域独自の特色がある。代表的なものとして、屋慶名エイサー、平敷屋エイサー、平安名エイサー、赤野エイサーなどがあげられる。



平敷屋エイサー

■ 代表的なエイサー

- ・ 屋慶名エイサー
- ・ 平敷屋エイサー
- ・ 平安名エイサー
- ・ 赤野エイサー

(6) イベント

本市では、全島闘牛大会、全島獅子舞フェスティバル、ハーリー大会、春の芸術祭、うるま市エイサーまつり、あやはし海中ロードレース大会、うるま祭り、うるま市産業まつりなど1年を通じて様々なイベントが開催されている。

また、各地域で受け継がれてきた伝統芸能や年中行事も数多く催されている。



あやはし海中ロードレース大会

■ 代表的なイベント

- ・ 全島闘牛大会
- ・ 全島獅子舞フェスティバル
- ・ うるま祭り
- ・ うるま市エイサーまつり
- ・ ハーリー大会
- ・ 春の芸術祭
- ・ うるま市産業まつり
- ・ あやはし海中ロードレース大会

■主要観光資源一覧

資源種別	資源名	資源種別	資源名	資源種別	資源名
自然	石川岳	グスク	伊波城跡	闘牛	石川多目的ドーム（全島闘牛大会）
	石川川のマングローブ		安慶名城跡		伊波闘牛場
	クール岳		兼箇段グスク		東恩納闘牛場
	天願川		江洲グスク		安慶名闘牛場
	屋慶名海峡		勝連城跡		屋慶名闘牛場
	浜比嘉島	史跡・名所	石川高原展望台	観光レクリエーション施設	石川少年自然の家
	ムルク浜海岸		クーガー橋		石川市民の森
	平安座島		ステシヌジガマ		東山カントリークラブ
	宮城島		嘉手苺観音堂		ホテル潮騒
	伊計島		伊波按司の墓		石川会館
津堅島	浜千鳥節の碑		石川公園		
景観	石川高原展望台からの風景		平安名貝塚		中央荘
	ホテルや野鳥が棲む天願川の風景		ワイトゥイ		民宿やすま
	野鳥の森林公園の風景		ヒッチャマー		石川歴史民俗資料館
	世界遺産勝連城跡の風景		平敷屋タキノー		ビオスの丘
	屋慶名展望台からの屋慶名海峡の風景		屋慶名展望台		沖縄ロイヤルゴルフクラブ
	海中道路からの風景		ジャネーガマ遺跡		ココガーデンリゾートオキナワ
	ムルク浜海岸の風景		海中道路		高原ゴルフクラブ
	浜比嘉大橋からの風景	シルミチュー	民宿かいほう		
	平安座島高台からの風景	アマミチューの墓	具志川ゴルフクラブ		
	シヌグ堂バンタの風景	浜比嘉大橋	安慶名中央公園		
ビーチ	宮城島から伊計島に続く高離橋からの風景	与佐次河	民宿秀和		
	津堅島から見た風景	シヌグ堂バンタ	ペンション赤野		
	石川ビーチ	高離節の歌碑	市民芸術劇場		
	昆布ビーチ	ヤンガー	春日観光ホテル		
	宇堅ビーチ	伊計大橋	きむたかホール		
	具志川ビーチ	仲原遺跡	海の駅あやはし館		
	照間ビーチ	伊計離節の歌碑	ホテルへんざ		
	兼久ビーチ	犬名河	観光ビジネスホテル平安		
	浜の人工ビーチ	ホートゥガー	浜比嘉ハウス		
	トンナハビーチ	主なエイサー	赤野エイサー	ホテル浜比嘉島リゾート	
伊計ビーチ	平安名エイサー		ゆがふの郷		
大泊ビーチ	平敷屋エイサー		はなりびら		
トゥマイ浜	屋慶名エイサー		沖縄サーキット伊計島		
			コテージ伊計海の唄		
			キャロット愛ランドキャンプ場		
			民宿津堅		
			神谷荘		
			南原旅館		

(7) 観光施設（世界遺産）の利用状況

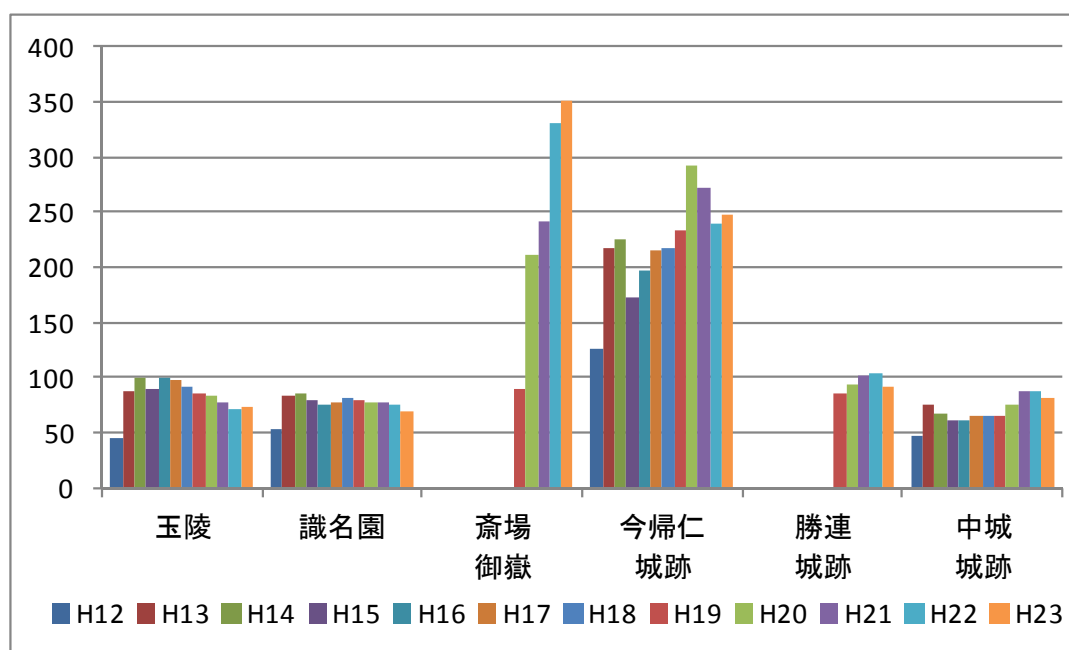
平成 23 年の県内の観光施設（世界遺産）の利用者数は、首里城公園が 202 万人で最も多く、次いで斎場御嶽 35 万 1 千人、今帰仁城跡 24 万 8 千人となっている。勝連城跡については、9 万 1 千人となっている。

【施設利用者数の推移】

単位：千人

年度	首里城公園	玉陵	識名園	斎場御嶽	今帰仁城跡	勝連城跡	中城城跡
H12	2,059	44	53	-	125	-	48
H13	2,018	87	84	-	217	-	75
H14	2,330	99	86	-	226	-	68
H15	2,466	90	79	-	173	-	60
H16	2,531	99	75	-	197	-	62
H17	2,474	98	77	-	215	-	65
H18	2,659	91	81	-	218	-	65
H19	2,680	85	79	89	233	85	66
H20	2,576	84	78	211	291	94	75
H21	2,212	78	78	241	273	101	89
H22	2,083	72	76	330	240	103	88
H23	2,020	74	69	351	248	91	81

参考：沖縄県 観光要覧 平成 23 年度版



(8) 勝連城跡の入場者数

平成 24 年度の入場者数を見ると、年間約 14 万 5 千人（平成 25 年 3 月現在）の入場者の内、県内客が約 2 万 5 千人（17.2%）、県外客が約 12 万 千人（82.8%）となっている。

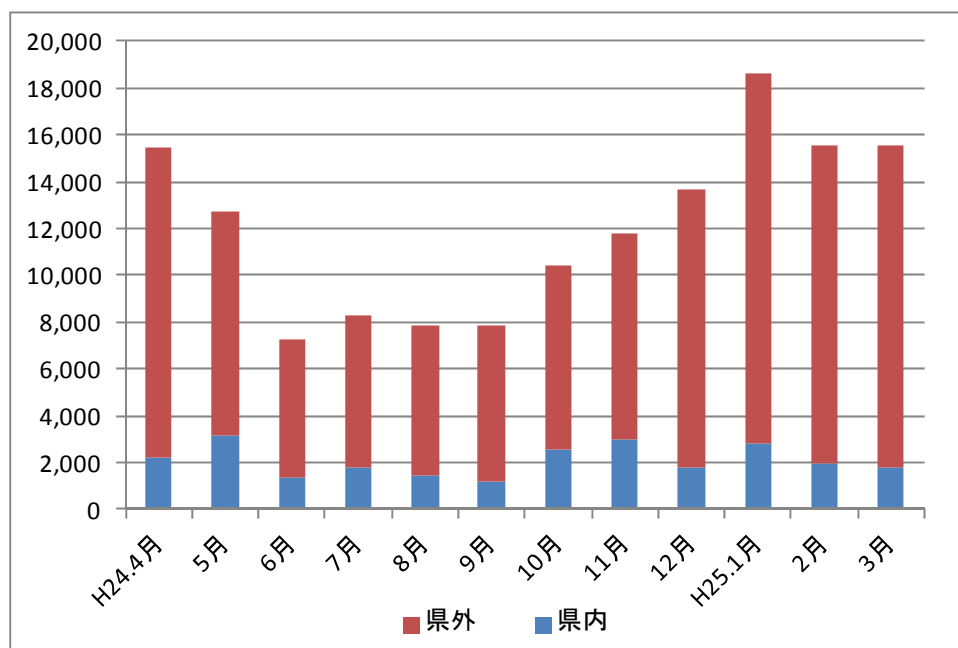
月別入場者数は、年度初めの 4 月から 5 月にかけて入場者総数 1 万人を超えており、6 月から 9 月にかけては減少傾向にある。10 月から年明け 1 月にかけて増加傾向にあり、2 月、3 月は若干減少しているが、10 月以降、毎月 1 万人を超えている。

【勝連城跡入場者数（平成 24 年度）】

※平成 25 年 3 月現在

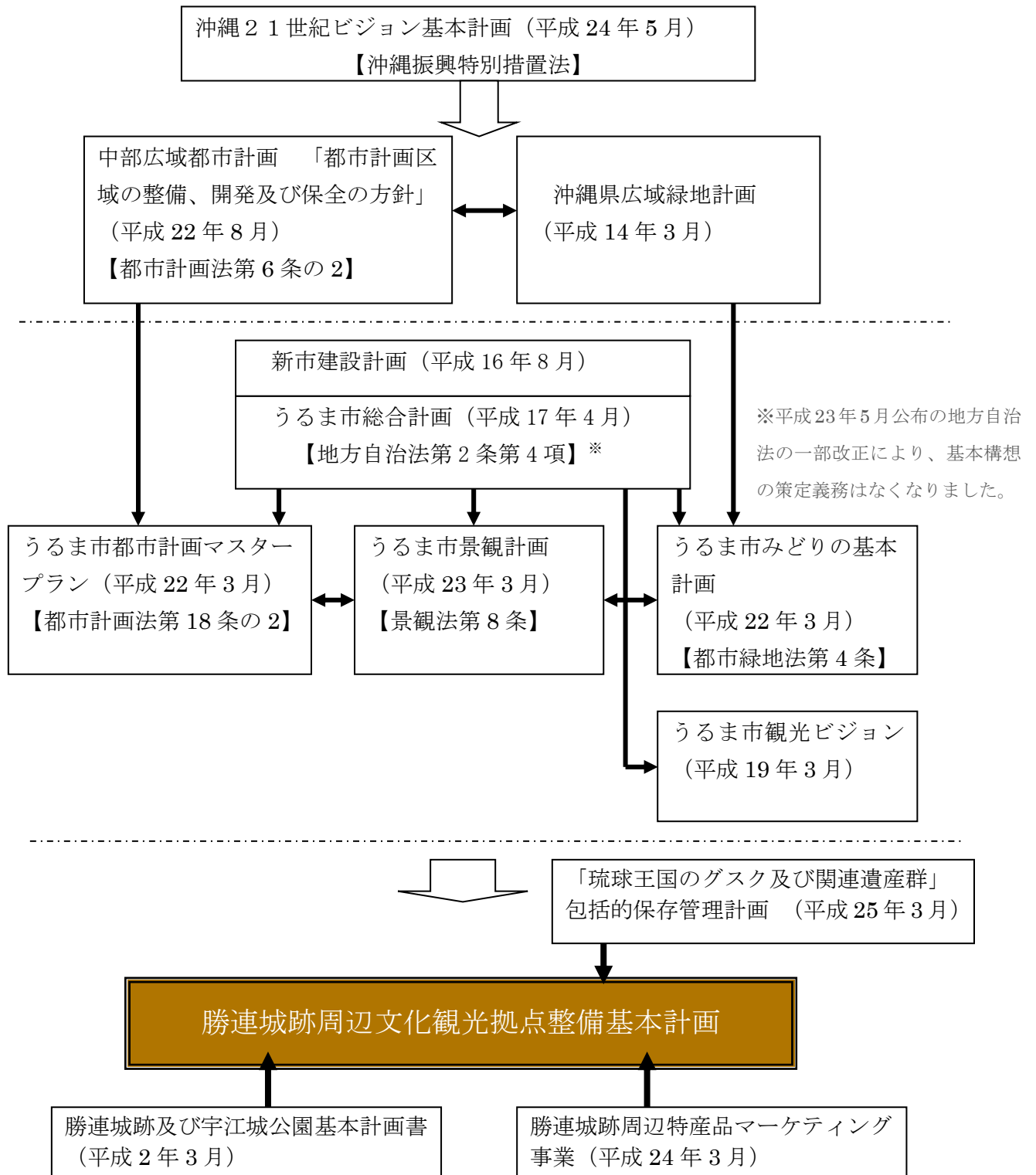
		H24.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H25.1月	2月	3月	合計
入 場 者	県内	2,220	3,132	1,374	1,822	1,448	1,210	2,562	2,954	1,752	2,801	1,972	1,747	24,994
	県外	13,278	9,582	5,884	6,441	6,442	6,657	7,826	8,817	11,899	15,812	13,575	13,781	119,994
	合計	15,498	12,714	7,258	8,263	7,890	7,867	10,388	11,771	13,651	18,613	15,547	15,528	144,988

参考：うるま市商工観光課資料



5. 上位関連計画の整理

(1) 勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画の位置づけ



(2) 4つの視点による整理

本計画は、勝連城跡一帯をうるま市の文化・観光の拠点として位置づけ、観光・文化の振興及び地域活性化等に資する複合的な機能を集約させたエリアの創出を目指すことを目的としている。

したがって、計画を作成するにあたり、「史跡」「観光」「環境」「整備」の4つの視点から現況把握及び課題の整理等を行う必要がある。

視 点	整理事項
1. 史跡	歴史的環境に関すること。
2. 観光	観光振興及び地域活性化に関すること。
3. 環境	自然環境及び土地利用、景観形成に関すること。
4. 整備	総合的な施設整備に関すること。

※△は複数の部会において共通する事項

上位関連計画の整理（分野別）

	史 跡	観 光	環 境	整 備
沖縄 21 世紀ビジョン 基本計画 (平成 24 年 5 月)	△歴史的遺産群等を結ぶ観光ルートの整備を促進し、琉球歴史回廊の形成を図る	■自然及び文化を生かした体験・滞在型観光の創出 △歴史的遺産群等を結ぶ観光ルートの整備を促進し、琉球歴史回廊の形成を図る	■歴史的景観の保全	△歴史的遺産群等を結ぶ観光ルートの整備を促進し、琉球歴史回廊の形成を図る
中部広域都市計画 「都市計画区域の整備、 開発及び保全の方針」 (平成 21 年 8 月)	■貴重な歴史文化資源であるグスク群や伝統的な集落をつなぐ「琉球歴史回廊」の形成を図る △与勝半島の豊かな自然海岸と世界遺産勝連城跡につながる琉球歴史回廊の整備による快適な空間を創出する	■地域の快適空間や観光拠点として活用する △歴史的景観と調和した周辺整備及び観光ルート化等を促進	■歴史的景観の保全	■勝連城跡の公園化 ■眺望地点として確保し、公園整備に努める ■概ね 10 年以内の公園整備を図る △与勝半島の豊かな自然海岸と世界遺産勝連城跡につながる琉球歴史回廊の整備による快適な空間を創出する △歴史的景観と調和した周辺整備及び観光ルート化等を促進
沖縄県広域緑地計画 (平成 14 年 3 月)	■登録遺産と周辺環境の保全と活用・普及 ■グスクや御嶽や聖域等の保全と活用 △ゆかりの郷土資源等の保全と整備 △街道・古道・参詣道の緑地的環境の保全整備		■グスク等の史跡と一帯の環境の維持・修復 ■沖縄の風土を表す緑の姿の保全・再生 ■世界遺産登録のグスクと海岸線や自然河川を活かす	△ゆかりの郷土資源等の保全と整備 △街道・古道・参詣道の緑地的環境の保全整備
新市建設計画 (平成 16 年 8 月)	■地域の歴史を刻む各種文化財についてはその保護と有効な活用を図る △世界遺産周辺整備事業を継承し、勝連城跡周辺の環境整備を推進することにより、遺産群等との一体化による琉球歴史回廊の一端を担う △歴史的、文化的価値の高い建造物等を新市の遺産として未来に残す方法の研究や体制づくりに努める △歴史資源との連帯を図ることによって新たな観光空間の創出を図る			△世界遺産周辺整備事業を継承し、勝連城跡周辺の環境整備を推進することにより、遺産群等との一体化による琉球歴史回廊の一端を担う △歴史的、文化的価値の高い建造物等を新市の遺産として未来に残す方法の研究や体制づくりに努める
うるま市総合計画 後期基本計画 (平成 24 年 3 月)	■文化財を生かしたまちづくり・地域づくり △勝連城跡の整備・活用を進めるとともに、周辺地域の保護を図る	■文化観光拠点として整備を推進するとともに、休憩所を含めた周辺施設等も有効に活用し、観光誘客及び物産振興を推進する	△勝連城跡の整備・活用を進めるとともに、周辺地域の保護を図る ■歴史的・文化的な景観づくり	■勝連城跡周辺の歴史公園の整備 ■文化財として指定された土地の買収や城郭内の保存修理 ■憩い・交流の場、観光・レクリエーションの拠点として歴史公園の整備に努める
うるま市都市計画 マスタープラン (平成 22 年 3 月)		■観光及び景観のシンボルの拠点	■うるまらしい伝統・文化や景観に優れた景観づくり ■勝連城跡からの眺望及び勝連城跡への眺望景観の保全 ■市内に豊富に存在する歴史・文化的資源を大切に守る ■城跡周辺の観光スポットや施設、道路については地域景観と調和した計画的な景観づくりを推進する	

うるま市みどりの基本計画 (平成 22 年 3 月)				<ul style="list-style-type: none"> ■ 周辺環境と調和した整備と適切な維持管理により、地域資源として保全・活用を図る ■ 文化財として指定された範囲の土地の買収や城郭内の保存復元 ■ 周辺一帯を含めて誘客性の高い歴史公園としての整備 ■ 歴史的な物語性等を考慮し、自生種を中心に植栽する
	△城跡北側にある沼地は、水鳥等の調査を行い、勝連城跡と一体的に整備・活用を図る		△城跡北側にある沼地は、水鳥等の調査を行い、勝連城跡と一体的に整備・活用を図る。	△城跡北側にある沼地は、水鳥等の調査を行い、勝連城跡と一体的に整備・活用を図る
		△周辺を含めた環境保全・整備を図り、景観資源や交流拠点としての有効活用を図る	△周辺を含めた環境保全・整備を図り、景観資源や交流拠点としての有効活用を図る	
うるま市景観計画 平成 23 年 3 月			<ul style="list-style-type: none"> ■ 勝連城跡からの眺望景観の保全 	
			△勝連城跡周辺の沿道景観づくり △周辺の環境保全及び景勝地周辺に相応しい街並みづくり	△勝連城跡周辺の沿道景観づくり △周辺の環境保全及び景勝地周辺に相応しい街並みづくり
	△シンボル景観拠点として施設及び史跡等の適切な保全・管理		△シンボル景観拠点として施設及び史跡等の適切な保全・管理	
うるま市観光振興ビジョン (平成 19 年 3 月)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 希少性の高い世界遺産の知名度を生かしたブランドイメージの確立 ■ 自然、歴史や風土に恵まれた文化、産業等の豊富な資源を生かした体験プログラムの創出 		
勝連城跡及び宇江城公園 基本計画書 (平成 2 年 3 月)	△歴史的環境の保全を図りながら、公園として質の高い復元整備と活用を図る △沖縄のグスクを中心とした研究・学習の場所として施設計画を行う △グスクや勝連文化の研究と勝連城跡の利用の活性化を高める施設として、資料館を設置する △中城湾側の将来開発計画を考慮し、将来の公園利用及び施設配置に留意する △園路と広場、駐車場、休憩所、案内板の設置			△歴史的環境の保全を図りながら、公園として質の高い復元整備と活用を図る △沖縄のグスクを中心とした研究・学習の場所として施設計画を行う △グスクや勝連文化の研究と勝連城跡の利用の活性化を高める施設として、資料館を設置する △中城湾側の将来開発計画を考慮し、将来の公園利用及び施設配置に留意する △園路と広場、駐車場、休憩所、案内板の設置
勝連城跡周辺特産品 マーケティング事業 (平成 24 年 3 月)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 勝連城を舞台にした歴史物語のドラマ化の働きかけ ■ 個々の物産やサービスの充実を図るとともに、経済活動を支援する常設物販所の準備 ■ 勝連グスクまつりの実施 		
		△本格的な資料館の整備 △物販と常設サービスの主舞台になる常設物販所の整備 △県道 16 号を付け替えし、城跡と駐車場を一体的に整備 △南風原御門側への入口、駐車場の整備 △景観を阻害する施設の移転の働きかけ		△本格的な資料館の整備 △物販と常設サービスの主舞台になる常設物販所の整備 △県道 16 号線を付け替えし、城跡と駐車場を一体的に整備 △南風原御門側への入口、駐車場の整備 △景観を阻害する施設の移転の働きかけ
		△無電柱化による景観形成	△無電柱化による景観形成	△無電柱化による景観形成
	史 跡	観 光	環 境	整 備

(3) 上位関連計画における整備の方向性

勝連城跡の整備にあたり、上位関連計画の方向性は以下のとおりである。

(1) 良好な環境及び景観の形成
<ul style="list-style-type: none"> ① 勝連城跡及びその周辺環境の保全・活用 ② 勝連城跡及びその周辺を含めた歴史的景観の保全 ③ 勝連城跡及びその周辺に存在する歴史・文化的資源の保全 ④ 緑の保全・再生 ⑤ グスクと海岸線や自然河川を活かす ⑥ ゆかりの郷土資源等の保全と整備 ⑦ 街道・古道・参詣道の緑地的環境の保全整備 ⑧ うるまらしい伝統・文化や景観に優れた景観づくり ⑨ 勝連城跡からの眺望景観の保全 ⑩ 周辺の沿道景観づくり ⑪ 景勝地周辺に相応しい街並みづくり ⑫ 無電柱化による景観形成 ⑬ 景観を阻害する施設等の移転の働きかけ
(2) 観光資源としての整備・活用
<ul style="list-style-type: none"> ① 観光ルートの整備 ② 体験・滞在型観光の創出 ③ 地域の快適空間及び観光拠点としての活用 ④ 観光及び景観のシンボルの拠点 ⑤ 豊富な資源を活かした体験プログラム ⑥ 勝連グスク祭り等イベントの実施 ⑦ ブランドイメージの確立 ⑧ 観光者を対象とした特産物の販売拠点等の整備 ⑨ 歴史物語のドラマ化
(3) 歴史公園としての施設整備のあり方
<ul style="list-style-type: none"> ① グスクや御嶽、聖域等の保全と整備 ② 文化財として指定された土地の買収や城郭内保全修理 ③ 歴史的遺産群等を結ぶ琉球歴史回廊の形成 ④ 勝連城跡周辺の歴史公園の整備 ⑤ 地域景観と調和した観光スポット、施設、道路整備 ⑥ 歴史的背景を考慮し、自生種を植栽 ⑦ 勝連城跡北側の沼地と一体的に整備・活用 ⑧ 沖縄のグスクを中心とした研究・学習施設計画 ⑨ 資料館の整備 ⑩ 園路と広場、駐車場、休憩所、案内板等の設置 ⑪ 常設物販所の整備 ⑫ 県道 16 号線付け替えによる城跡と駐車場の一体的な整備 ⑬ 南風原御門側への入口及び駐車場の整備

6. 現況及び課題の整理

(1) 市民及び職員ワークショップからの現況及び課題

市民及び職員ワークショップの意見を「史跡」「観光」「環境」「整備」の4つの視点で整理する。

－ 史跡 －

ハード面の現状と課題

●勝連城跡内の道路

- ・ 県道側の入り口からグスクにかけ登り坂となっている。
- ・ 道路は凹凸があり歩きにくく、摩耗により雨天時は滑る危険性がある等、状態が悪い
- ・ 体の不自由な方や高齢者の方へ配慮した整備が必要である。(手摺り、スロープ設置)
- ・ 城跡南側の出入り口は通路があるものの、整備されておらず危険性がある。また南側からのアプローチを強化するために、道路整備が必要である。
- ・ 城周辺を周遊できる通路がない。周遊できる歩道整備の要望がある。
- ・ 休憩所・駐車場から城へアクセスする際、県道 16 号線を横断しなければいけない。
- ・ 休憩所 2 階から城へアクセスできる歩道橋の整備について要望がある。
- ・ 勝連城跡の歴史的価値を保存しつつ、安全で快適な道路づくりが望まれる。

●勝連城

- ・ 現在、城壁が整備中である。
- ・ 本丸、正殿、城壁、門等の復元の要望がある。
- ・ 城壁の崩落など安全性の問題が懸念される。

●案内板・サイン

- ・ 城跡内は案内板が設置されているが、まだ十分でない(足りない)
- ・ 城跡周辺においても同じく、案内板やサイン表示が十分でない。
- ・ 勝連城跡及び城跡内の案内板・サイン表示の充実が求められる。

●資料館・博物館

- ・ 歴史資料館をさらに充実させながら、館内において学習施設やお土産品店等の販売所の設置が求められる。

●その他、城跡内の施設

- ・ トイレは休憩所のみ設置されている。城跡側での設置の要望がある。
- ・ 城跡内に休憩できる場(東屋等)の要望がある。
- ・ 夜の城跡を演出するために、城のライトアップの要望がある

●県道 16 号線

- ・ 城跡と休憩所の間県道 16 号線が通っている。
- ・ 県道 16 号線の法線変更や付け替え等が求められる。

●その他、城跡周辺について

- ・ 周辺に点在する井戸やウタキ、歴史道などの文化資源の保全・整備が必要である。
- ・ 城跡南側出入り口付近について、駐車場、公園整備の要望がある。
- ・ 勝連城跡を体験できる遊戯施設等の要望もある。

ソフト面の現状と課題	
<p>○勝連城</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石垣や城壁が美しく、世界遺産として風格があり、また肝高の阿麻和利^{あまわり}など歴史的背景を持つ勝連城を保存・継承する必要がある。 ・整備と保全のバランスが課題である。 <p>○イベント・観光</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝連城跡を活用したイベント等が少ない。 ・肝高の阿麻和利^{あまわり}などのステージや、首里城や中城城などの歴史遺産群と連携したイベント等を企画してほしいとの要望がある。 ・周辺地域も含めた歴史ガイドや観光ルート等の検討。 <p>○その他、城跡周辺について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝連城跡のみならず、周辺地域の歴史・文化を保全・継承する必要がある。 	

— 観光 —

ハード面の現状と課題

●お土産品店、飲食店

- ・城跡内及び周辺地域には、飲食店やお土産品店等が少ない。
- ・休憩所においてはお土産品店や飲食店、周辺地域においてはカフェやレストラン等の施設が望まれている。

●案内板・サイン

- ・城跡内は案内板が設置されているが、まだ十分でない（足りない）
- ・城跡周辺においても同じく、案内板やサイン表示が十分でない。
- ・勝連城跡及び城跡内の案内板・サイン表示の充実が求められる。

●ユビタ

- ・ユビタを活用し、勝連城跡と一体となった観光地としての整備（公園、遊歩道等）

●その他、城跡周辺

- ・人を呼び込める施設等が必要である。
- ・公園や遊戯施設、地域の特産物やお土産品などを販売する道の駅など。

ソフト面の現状と課題

○イベント・観光

- ・勝連城跡を活用したイベント等が少ない。
- ・肝高の阿麻和利などのステージや、首里城や中城城などの歴史遺産群と連携したイベント等を企画してほしいとの要望がある。
- ・歴史ガイドや観光ルート等の検討。
- ・周辺地域の方と共同で開催する朝市や、漁港と連携した物産販売等の展開などの要望がある。
- ・シートピア勝連をカフェ通りとして展開（勝連城を眺めながらくつろげる空間）

○PR 活動

- ・県外の観光客を意識した広報・PR 活動を強化する必要がある。
- ・勝連城と関連した商品開発（飲食、キャラクター等）
- ・県内、市内、地域住民の勝連城跡に対する意識醸成を図ることが求められる。

○景観

- ・勝連城からの眺望、また勝連城を望む景観を活かした観光施策が求められる。

○ユビタ

- ・ユビタを活用し、勝連城跡と一体となった観光施策が求められる。

○観光ルート、ガイド等

- ・勝連城跡周辺には、海中道路や伊計島等の離島など、観光拠点がある。
- ・これら観光拠点と連動した観光ルートづくりが求められる。
- ・勝連城跡や周辺地域も含めた歴史ガイドや観光ガイド等の検討。

— 環境 —

ハード面の現状と課題

●景観形成

- ・県道 16 号線沿道の電柱や電線、勝連城跡に隣接した採石場や変電所等が景観を阻害している。
- ・勝連城跡の良好な景観形成を図るため、電線地中化や、採石場、変電所等の移設などが求められる。
- ・周辺集落の建築物を赤瓦屋根や石積みの外壁にするなど、勝連城跡周辺に相応しい景観形成を図ることが求められる。

●ユビタ

- ・ユビタを活用し、勝連城跡と一体となった整備（公園、遊歩道等）

ソフト面の現状と課題

○自然環境

- ・緑豊かな自然が勝連城跡を囲んでいる。
- ・勝連城跡内の草木の管理が十分でない。
- ・整備と自然環境の保全のバランスが課題である。

○ユビタ

- ・ユビタの良好な自然環境を保全しつつ、勝連城跡と一体となった活用が求められる（公園整備、遊歩道等）

○景観

- ・勝連城から眺める 360° パノラマの良好な景観を有している。
- ・周辺から望む勝連城は、歴史的で風格のある景観である。
- ・周辺の集落や農地についても良好な景観を形成している。
- ・勝連城跡及び周辺地域が一体となった景観形成への取組みが求められる。

— 整備 —

ハード面の現状と課題

●勝連城跡内の道路

- ・ 県道側の入り口からグスクにかけ登り坂となっている。
- ・ 通路は凹凸があり歩きにくく、摩耗により雨天時は滑る危険性がある等、状態が悪い
- ・ 体の不自由な方や高齢者の方へ配慮した整備が必要である。(手摺り、スロープ設置)
- ・ 城跡南側の出入り口は、通路があるものの、整備されておらず危険性がある。また南側からのアプローチを強化するために、道路整備が必要である。
- ・ 城周辺を周遊できる通路がない。周遊できる歩道整備の要望がある。
- ・ 休憩所・駐車場から城へアクセスする際、県道 16 号線を横断しなければいけない。
- ・ 休憩所 2 階から城へアクセスできる歩道橋の整備について要望があった。
- ・ 勝連城跡の歴史的価値を保存しつつ、安全で快適な道路づくりが望まれる。

●勝連城

- ・ 現在、城壁が整備中である。
- ・ 本丸、正殿、城壁、門等の復元の要望がある。
- ・ 城壁の崩落など安全性の問題が懸念される。

●案内板・サイン

- ・ 城跡内は案内板が設置されているが、まだ十分でない(足りない)
- ・ 城跡周辺においても同じく、案内板やサイン表示が十分でない。
- ・ 勝連城跡及び城跡内の案内板・サイン表示の充実が求められる。

●資料館・博物館

- ・ 歴史資料館をさらに充実させながら、館内において学習施設やお土産品店等の販売所の設置が求められる。

●お土産品店、飲食店

- ・ 城跡内及び周辺地域には、飲食店やお土産品店等が少ない。
- ・ 休憩所においてはお土産品店や飲食店、周辺地域においてはカフェやレストラン等の施設が望まれている。

●その他、城跡内の施設

- ・ トイレは休憩所のみ設置されている。城跡側での設置の要望がある。
- ・ 城跡内に休憩できる場(東屋等)の要望がある。
- ・ 夜の城跡を演出するために、城のライトアップの要望がある
- ・ 駐車場の拡大整備が求められる。

●県道 16 号線

- ・ 城跡と休憩所の間県道 16 号線が通っている。
- ・ 県道 16 号線の法線変更や付け替え等が求められる。

●景観形成

- ・ 県道 16 号線沿道の電柱や電線、勝連城跡に隣接した採石場や変電所等が景観を阻害している。

- ・勝連城跡の良好な景観形成を図るため、電線地中化や、採石場、変電所等の移設などが求められる。
- ・周辺集落の建築物を赤瓦屋根や石積みの外壁にするなど、勝連城跡周辺に相応しい景観形成を図ることが求められる。

●ユビタ

- ・ユビタを活用し、勝連城跡と一体となった整備（公園、遊歩道等）

●その他、城跡周辺について

- ・周辺に点在する井戸やウタキ、歴史道などの文化資源の保全・整備が必要である。
- ・城跡南側出入口付近について、駐車場、公園整備の要望がある。
- ・人を呼び込める施設等が必要である。
- ・公園や遊戯施設、地域の特産物やお土産品などを販売する道の駅など。

ソフト面の現状と課題

○管理

- ・現在、入場料・駐車料は無料である。
- ・城跡の整備等を行うため、有料化も検討する必要がある。
- ・有料化・無料化のゾーン検討も考えられる。

○勝連城

- ・整備と保全のバランスが課題である。

○交通・アクセス

- ・バス等の公共交通が不便である。
- ・県道 16 号線及び県道 10 号線で交通渋滞が起きる。
- ・勝連一周道路の早期実現化

【市民ワークショップの様子】



7. 整備にあたっての視点

市民及び職員ワークショップの意見や上位関連計画の整備の方向性を踏まえ、整備にあたっての視点として以下の項目が重要と考える。

a. 勝連城跡内の園路整備

城跡内の園路は、城へアクセスする際に急勾配が続き、また歩きにくく、滑る危険性があるなどの課題がある。今後、整備する際は勝連城跡の歴史的価値を保全しつつ、安全性・快適性を重視し、さらに体の不自由な方や高齢者の方へ配慮した園路の整備が求められる。

また、城へのアプローチを強化するため、南風原御門の整備も検討する必要がある。

b. 資料館やその他城跡内の施設整備

資料館については、歴史・文化・自然の資料の充実を図りつつ、学校教育と生涯学習の振興に寄与し、憩いの場やミュージアムショップなど附帯施設の整備を検討する必要がある。

その他、東屋等の休憩所の設置、城跡のライトアップ整備、南風原御門側への駐車場等の検討が必要である。

c. 県道 16 号線の整備

現在、城跡内へアプローチする際に、休憩所・駐車場から交通量の多い県道 16 号線を横断しなければならず、安全性に問題がある。よって、県道 16 号線の法線変更・付け替え等の可能性について検討し、休憩所・駐車場と一体となった整備を検討する必要がある。また、道路植栽の変更や電線地中化についても検討が望まれる。

d. 勝連城跡及びその周辺を含めた歴史的景観の保全と整備

沿道の電柱・電線等の工作物や建築物が、勝連城の歴史的な景観を阻害していると考えられることから、沿道の無電柱化や工作物・建築物等の移設等の可能性について検討が必要である。

e. 勝連城跡や周辺の御嶽^{ウタキ}、聖域等歴史・文化資源の保全と整備

勝連城については、舎殿、城壁、門等の復元の可能性を検討する必要がある。周辺地域については、点在する歴史・文化資源の保全を図りつつ、その周辺の園路の整備や植生等の保全を検討する必要がある。

f. ユビタを保全・活用した一体的な整備

勝連城跡の北側にあるユビタは、良好な景観を有し、貴重な環境資源であることから、その保全・活用を図り、さらに勝連城跡と一体的な整備や、資料館と連携した体制づくりを検討する必要がある。

g. 城跡内及びその周辺における案内板・サインの設置

城跡内及び周辺地域において、案内板やサイン表示がまだ十分でない現状を踏まえ、今後、観光拠点として活用するためにも、案内板・サイン表示の充実が求められる。

h. 観光ルート及び観光者を対象とした特産物の販売拠点等の整備

世界遺産である勝連城跡は、本市の観光拠点として重要な役割を担っている。しかし、周辺地域において、県内外の観光者向けの飲食店や特産物の販売所が不足していることから、既存の商業施設の活用を含めた、観光者向けの商業施設等の充実が求められる。さらに、勝連城跡及び周辺の観光拠点（海中道路、伊計島等）と連動した観光ルートづくりの検討が必要である。

i. 勝連城跡を活用したイベントや広報・PR活動

勝連城跡は、世界遺産としての認知度はあるものの、その歴史的な背景についてはまだ十分に認知されていない状況である。

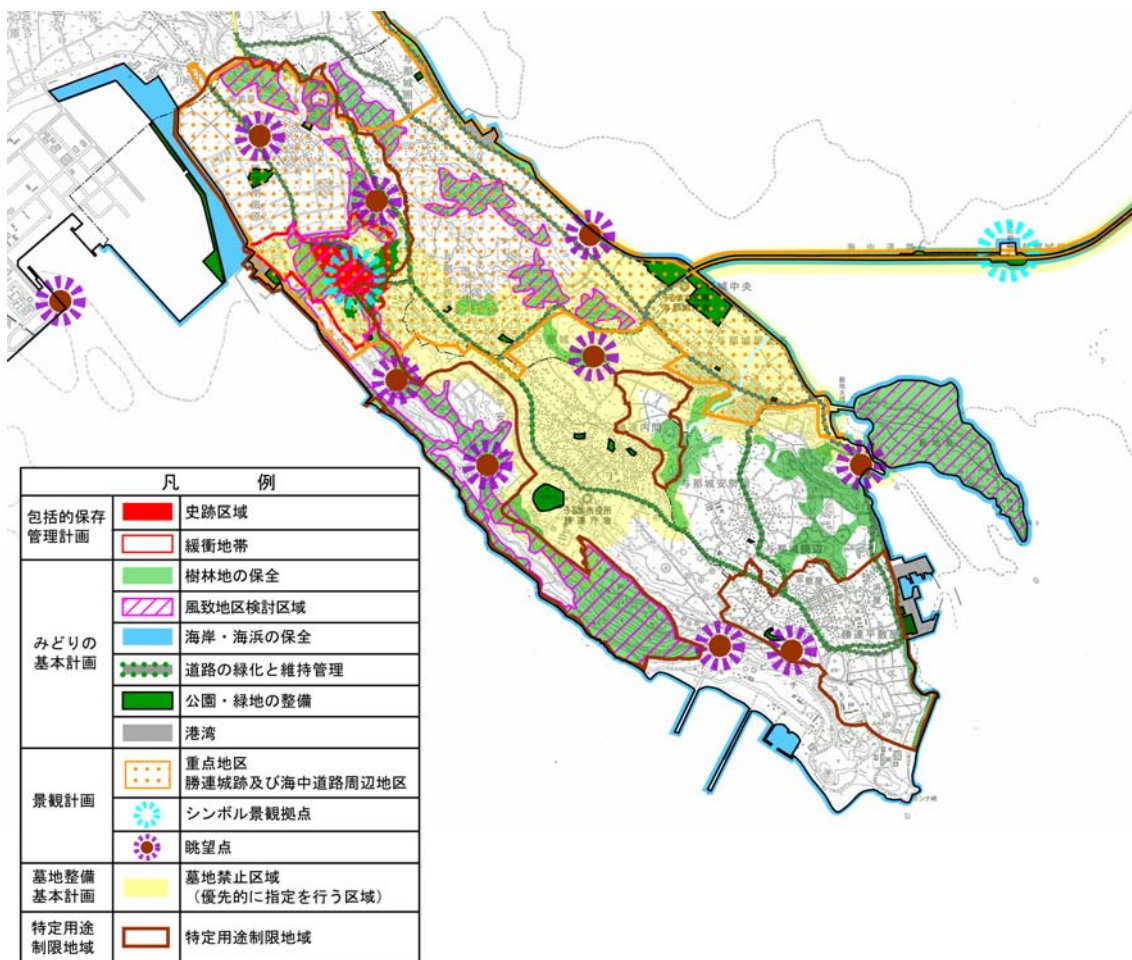
今後、本市の観光拠点として、県内外に向けての情報発信を強化するとともに、肝高の阿麻和利^{あまわり}など勝連城跡を舞台としたイベントや祭り等について検討する必要がある。

j. 人材育成やガイド養成等の組織づくりの強化

勝連城跡のガイドは現在でも活動しているが、今後は観光ガイドに加えて、イベントや地域の活性化に資する人材の育成や組織づくりを強化して、勝連城跡一帯をうるま市の観光文化の拠点として形成を図ることが望まれる。

8. 各種関連計画における保全及び整備の方針等

勝連城跡及び周辺一帯の地域では、無秩序な開発を抑制するため、各種関連計画等において土地利用に関する計画が作られている。以下は、各種関連計画等において位置付けられている保全及び整備の方針等についてまとめたものである。



■ 「琉球王国のグスク及び関連遺産群」包括的保存管理計画

【理念】

世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」を保存し活用することで、その顕著な普遍的価値を次世代へと確実に継承することを基本とし、さらに周辺地域の景観や関連する歴史文化資源等が一体となって表す本遺産の特質をも、適切に継承する。

【基本方針】

- ①本遺産の顕著な普遍的価値を確実に守る
- ②本遺産と緩衝地帯とが一体となって形成する歴史的風土・風致景観を保全する。
- ③本遺産の特質を表す周辺地域の景観を保全する。
- ④本遺産と密接な関連性を有する歴史文化資源を保護する。

- ⑤本遺産の顕著な普遍的価値を確実に維持するための適切な保全整備を推進する。
- ⑥来訪者に価値ある体験を提供するため、公開・活用に係る環境整備とソフト面の取組みを推進する。
- ⑦遺産への影響の定期的な観察と保全活用状況に係る情報の継続的な更新を行う。
- ⑧多様な関係者が連携して計画を推進する保存管理体制を構築する。
- ⑨計画の実効性を担保する具体的な取組みを明らかにする。

■特定用途制限地域

【指定の方針】

- ・勝連城跡周辺の、世界遺産周辺にふさわしい土地利用への誘導
- ・幹線道路沿道にふさわしい土地利用や建物用途等の規制・誘導
- ・市街地や既存集落の無秩序な拡大の防止
- ・集落と自然的土地利用の調和のとれた環境形成
- ・良好な住環境を保つための土地利用の規制・誘導

■うるま市景観計画

【重点地区の方針（勝連城跡及び海中道路周辺地区）】

- ・資源周辺の環境保全及び景勝地の周辺にふさわしい街並みづくり

■みどりの基本計画

【将来像（勝連地域）】

「みどりと歴史が息づく 美しいきむたかのまち」

- ・豊かなみどりと勝連城跡をはじめとする歴史文化資源が色濃く残る地域であり、今後もそれらを保全・活用し、将来の子ども達に引き継いでいくまちを目指す。
- ・勝連城跡という世界遺産のある地域に相応しい、風光明媚で品格のあるみどりのあるまちを目指す。

■墓地整備基本計画

【基本目標】

- ・まちづくりとの整合性に留意した墓地立地の規制・誘導を進めます。
- ・福祉サービスとしての視点にも立ち、様々なニーズに対応した供給体制づくり、環境づくりを進めます。
- ・地域の実情に応じた、墓地行政の実効性を高めるルール・仕組みづくりを進めます。

